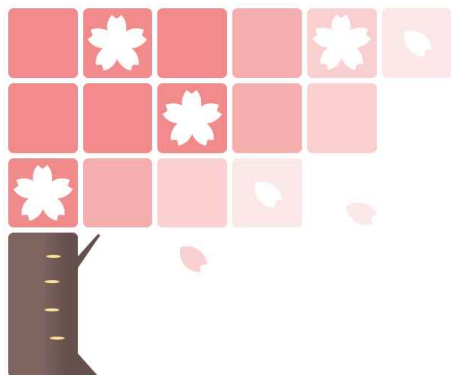
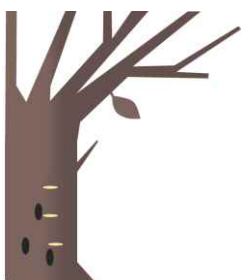


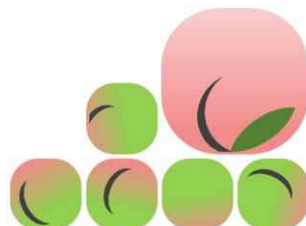


サクラやウメを
枯らす害虫

クビアカツヤカミキリ 対策の手引き



群馬県



目次



1 概要

クビアカツヤカミキリとは	P 1
被害	P 2
問題点	P 2

2 被害の現状

国内及び県内の発生状況	P 3
-------------	-----

3 確認方法

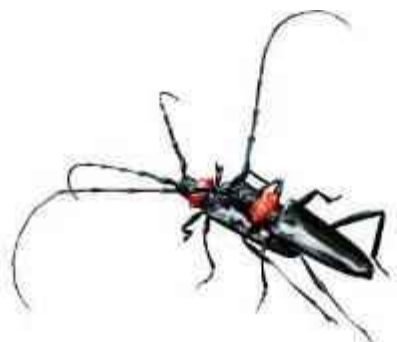
生態	P 4
成虫の確認方法	P 5
被害を受けている木の確認方法	P 6～9

4 防除対策

対策の選択	P 10～11
各種防除対策 (樹幹注入、フラス孔注入、散布、ネット巻き、成虫の捕殺、被害木の伐倒、その他)	P 12～17

「クビアカリポーター」へのご協力をお願い

P 18～19



クビアカツヤカミキリとは

「幼虫がサクラやウメ、モモなどの木に寄生し、木の中を食い荒らす外来の昆虫」

● 基本情報

和名 クビアカツヤカミキリ（別称 クロジャコウカミキリ）

学名 *Aromia bungii*

分類 コウチュウ目カミキリムシ科

● 原産地

中国、モンゴル、ベトナムなど

● 体長

2～4 cm（触角を除く）

● 成虫の特徴

クビ（胸部）が**赤く**、体は**ツヤ**のある黒色

発生時期は**6～8月**

※**6月下旬～7月中旬**が発生ピーク

触角を立てて歩く

ジャコウのような臭いを放つ

活動時間は昼間で、晴れた気温の高い日はよく飛んで移動する



クビアカツヤカミキリの成虫

● 寄主（クビアカツヤカミキリの幼虫が寄生する植物）

サクラ、ウメ、モモ（ハナモモ）、スモモ（プラム）、プルーン、おうとう（サクランボ）、アンズなど、バラの仲間の生木（生きている木）

● その他

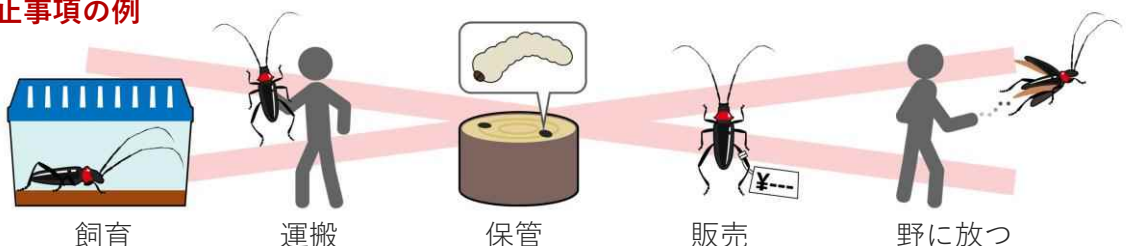
特定外来生物に指定されている。

✿ ポイント 「特定外来生物」

環境省が指定する「生態系や農林水産業などに被害を及ぼす外来生物」です。

法律により、**飼育**や**生きたままの運搬・保管・野に放つこと**などが**禁止**されています。

禁止事項の例



被害

幼虫が木の中を食い荒らし、木を弱らせて枯らす。

● 観光や景観への影響

サクラ、ハナウメ、ハナモモなどを枯らすことで観光や景観に被害を及ぼす。

● 農業への影響

ウメ、モモ、スモモ、サクランボ、アンズなどを枯らすことで、果樹の生産に被害を及ぼす。

● 人身・建物被害のおそれ

衰弱、枯死した木の枝が落ちたり、木が倒れることにより人がケガをしたり、建物に被害が及ぶおそれがある。

✿ ポイント 「群馬県は全国有数のウメ生産地」

群馬県は全国第2位のウメ生産地です。
被害が拡大すると、地域の産業に大きな影響が及ぶおそれがあります。



被害を受けた木の断面



枯れたモモ



折れた枝

問題点

● 高い繁殖力

産卵数が非常に多く、1匹のメスの産卵数は平均**350**個、最大**1000**個以上。
(日本在来のカミキリムシの数倍の産卵数)

● 繁殖しやすい環境

日本には寄主となるサクラ(=産卵場所や幼虫の食料)が多くあるため、繁殖しやすい。
高い繁殖力との相乗効果で、次々と分布を拡大している。

● 被害が見つけにくい

幼虫は木の中にいるため、基本的に人の目に触れることはない。
特に寄生の初期段階では被害を確認することが難しく、発見が遅れることで、被害が進行してしまう。

国内及び県内の発生状況

● 国内の発生状況

平成24（2012）年に愛知県で確認されて以降、全国に広がっている。
令和元年度には、全国**11都府県**で確認されている。



確認年	都道府県
平成24年	愛知県
平成25年	埼玉県
平成27年	群馬県 、東京都、大阪府、徳島県
平成28年	栃木県
平成29年	和歌山県
令和元年	茨城県 、三重県、奈良県

国内の発生状況（表内の太字は関東地方）

● 県内の発生状況

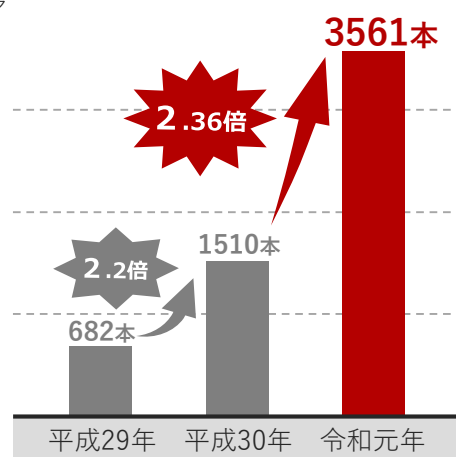
平成27（2015）年に館林市で確認されて以降、東部地域を中心に広がっている。
令和元年度調査では、**7市町**でサクラを中心に**3,561本**の被害が確認された。



県内の発生地域の推移

市町村	被害本数	樹種別本数		(参考) 平成30年
		サクラ	その他	
太田市	388	219	169	164
館林市	1,272	1,109	163	496
板倉町	168	166	2	33
明和町	434	286	148	311
千代田町	202	202	0	120
大泉町	658	645	13	194
邑楽町	439	425	14	192
7市町合計	3,561	3,052	509	1,510

令和元年度被害状況調査結果



被害本数の推移

生態

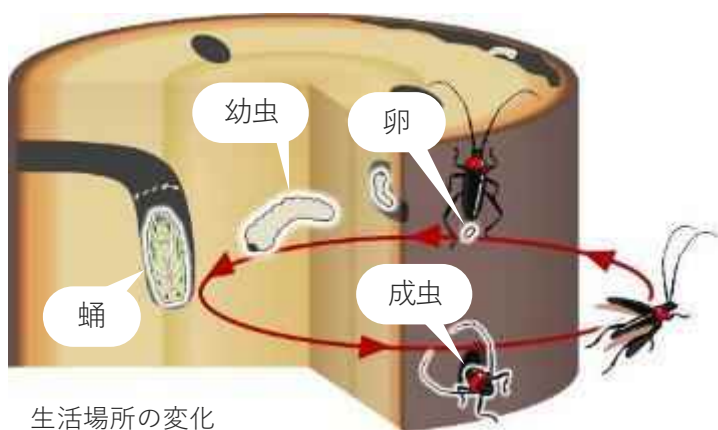
● 一生の流れ



✿ ポイント

「木を食い荒らすのは幼虫」

木を食い荒らし、弱らせるのは幼虫の仕業です。
成虫は移動して産卵し、被害を拡散させます。



1 年目			2 年目				3 年目				4 年目	
夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏

2年1化（2年で成虫になる）の場合



3年1化（3年で成虫になる）の場合



春から秋に木を食い荒らす

冬季は活動休止（休眠中や蛹は木を食べない）

一生の流れ

成虫の確認方法

✿ ポイント 「成虫の確認ポイント」

- 体長 2～4 cmの大型のカミキリムシ
- 赤いクビ（胸部）は、こぶ状の突起がある**そろばん型**
- 発生時期は 6～8月で、**6月下旬～7月中旬**が発生ピーク



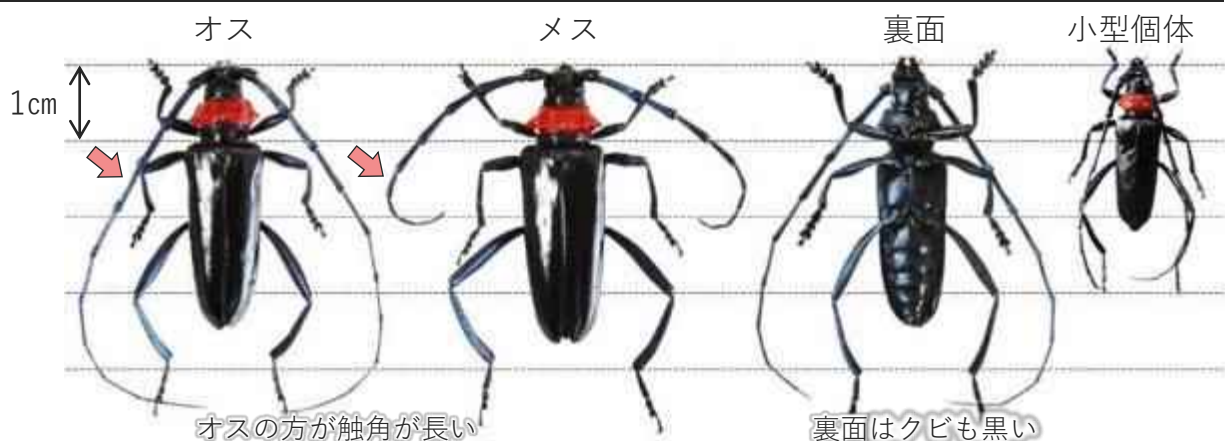
交尾する成虫（上がオス）



産卵する成虫（メス）

● 間違いやすい昆虫との比較（実物大）

クビアカツヤカミキリ



ヨコヅナサシガメ

チャイロホソヒラタカミキリ



被害を受けている木の確認方法

幼虫は木の中にいるため、基本的に人の目に触れることはない。

被害を受けている木を確認するポイントは**木の種類**と**フラス**、成虫の**脱出孔**の3点

● 木の種類

✿ ポイント 「被害を受ける木の種類」

クビアカツヤカミキリは、決まった種類の木に寄生します。

国内でクビアカツヤカミキリの被害が確認されている木は、**サクラ**、**ウメ**、**モモ**（ハナモモ）、**スモモ**（プラム）、**プルーン**、**おうとう**（サクランボ）、**アンズ**などバラの仲間の木です。

● フラス

「幼虫が木の外に排出する、**木くずとフンが混ざったもの**」

✿ ポイント 「フラスの確認ポイント」

フラスは木の外見から、被害の発生を確認できる**貴重な情報**です。

クビアカツヤカミキリのフラスかどうかを判断するポイントは以下のとおりです。

● 形は、**かりんとう状**（細長くねじれた形）が多い

※ 時間が経過したり根際から排出されたものなどは、バラバラに崩れていることがある

● **春から秋**にかけて排出され、量が**非常に多く**、**木の幹や枝の間、根元にたまる**

● フラスとともに**樹液**が大量に排出されていることが多い

● フラスに含まれる木くずの形が**薄く短い**



○ フラスの形（実物大）

形や大きさはさまざまで、**かりんとう状**のことが多い



○ 似ているフラスとの比較

フラスは崩して、木くずの形を確認すると見分けやすくなる。



クビアカツヤカミキリ

フラス

拡大図（1目盛り = 1 mm / 以下同じ）

フラスの形

- かりんとう状
- ひき肉状
- バラバラ

特徴

- 量：非常に多い
- 色：明るい茶色
- 場所：根際～幹



実物大



削り取ったような
薄く短い木くずが多い



コスカシバ (ガの仲間)

フラス

拡大図

フラスの形

- バラバラ
- かたまり状

特徴

- 量：少ない
- 色：黒っぽい
- 場所：根際～幹



実物大



ほとんど粒状のフンで
木くずが少ない



その他のカミキリムシ

フラス

拡大図

フラスの形

- ペレット状
- ひき肉状
- バラバラ

特徴

- 量：少～中
- 色：明るい茶色
- 場所：根際に多い



実物大



糸くずのような
繊維状の木くずが多い

○ クビアカツヤカミキリのフラスの例



大量に排出されたフラス



樹液とともに幹から排出されるフラス



幹の間にたまったフラス



幹から排出され、枝にたまったフラス



根際のバラバラになったフラス

✿ ポイント フラスと間違われやすい「^{ぎどう}蟻道」

木の幹に木くずがトンネル状につながっていることがあります。これは「蟻道（アリの巣）」で、巣材には砂や木くずなどのほか、クビアカツヤカミキリのフラスが使われる場合もあります。



● 成虫の脱出孔

「木の中で羽化した成虫が脱出した穴」

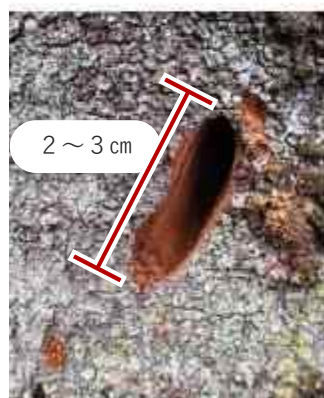
✿ ポイント 「脱出孔の確認ポイント」

クビアカツヤカミキリの脱出孔は、縦に長い**楕円形**をしています。

脱出孔は機械で穴を空けたように**滑らかな形**をしています。

この穴は、幼虫が成虫になる前の年に薄い皮を残して空けています（脱出予定孔）。

脱出予定孔からは、翌年に成虫が脱出してきます。



脱出孔(実物大)



脱出予定孔



たくさんの脱出孔がある被害木

○ 似ている脱出孔との比較（実物大）

クビアカツヤカミキリ以外の脱出孔



ゴマダラカミキリ

特徴

円形で、直径1.5cmほど



ヤマトタマムシ

楕円形で、幅1.2cmほど



※ ヤマトタマムシは主に枯れた木に産卵する

✿ ポイント 「脱出孔のから考えられること」

脱出孔は成虫が脱出した跡なので、**過去に被害**を受けていたことが分かります。

さらに、被害を受けている木は、複数の幼虫が寄生していることが多いため、まだ木の中に別の幼虫が寄生していることも考えられます。

対策の選択

● 被害状況の確認

効果的な対策には、木の被害状況に応じた適切な対策を選択することが重要

被害レベル	状態	判別方法
レベル0	未侵入の健康な木	・ フラス排出が見られない
レベル1	幼虫が寄生して間もない木	※ レベル0と1は 外見上区別できないため、周囲の発生状況などにより判断する。
レベル2	フラス排出が確認できる木	・ 細いフラスや樹液が目線より低い位置で数カ所から排出されている ・ 成虫の脱出孔はあまり見られない
レベル3	フラスが大量に排出されている木	・ 幹から大量の樹液が出ている ・ 根際に大量のフラスが溜まっている ・ 目線より高い位置からフラスが出ている ・ 多数の成虫脱出孔が見られる
レベル4	主幹の内部が穴だらけで衰弱・枯死した木	・ 葉が枯れたり、紅葉以外で変色している ・ 花や新しい葉を付けない ・ 木の内部が乾燥している (例：枝が簡単に折れる、落枝が多い、樹皮がボロボロにはげている など)



葉が変色したサクラ



樹皮がボロボロになったモモ



葉が枯れたサクラ

● 対策の種類

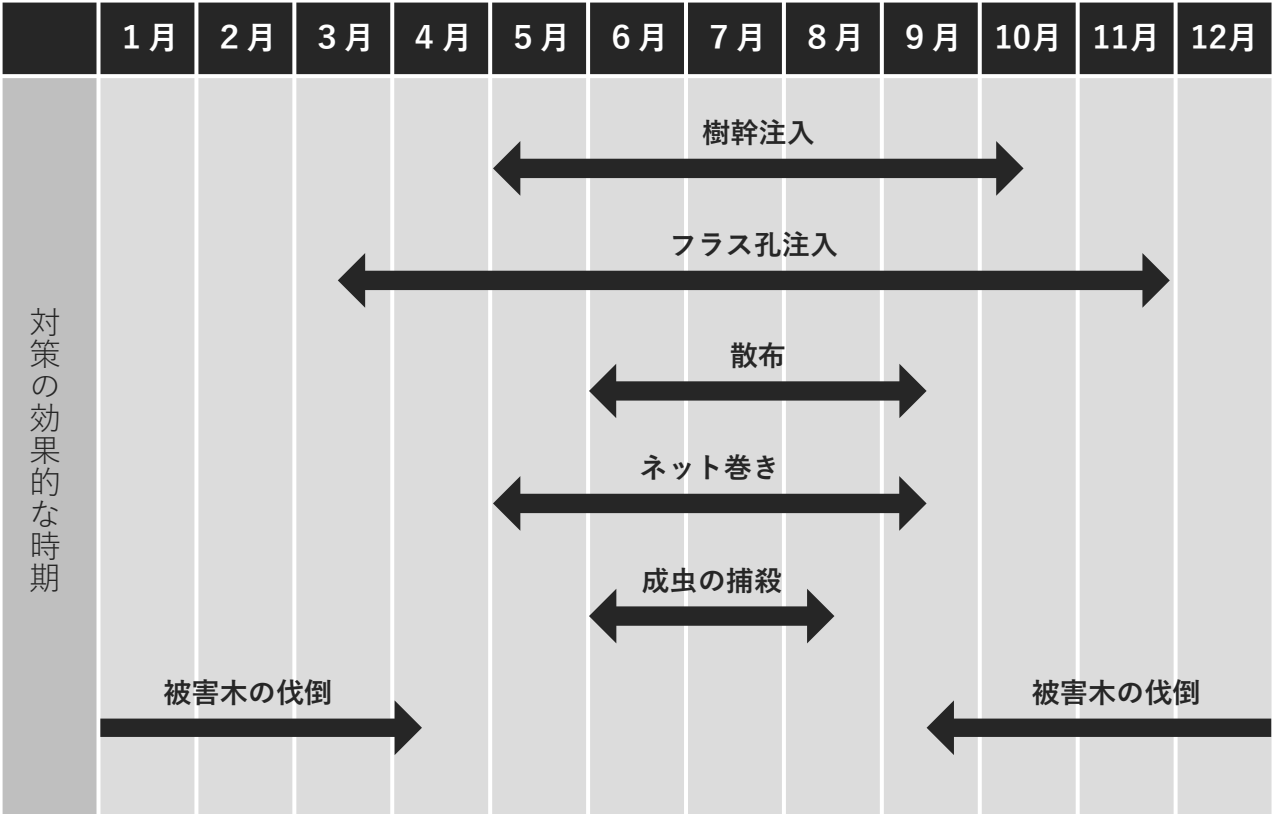
クビアカツヤカミキリの主な対策は以下のとおり

対策		対象		内容	被害レベルごとの効果				
		幼虫	成虫		0	1	2	3	4
農薬使用	樹幹注入	◎	－	木の幹に穴をあけ、 薬剤を注入	－	◎	◎	△	×
	フラス孔注入	○	－	フラスの出ている穴に 薬剤を注入	－	－	○	△	△
	散布	△	○	木に薬剤を散布	－	○	○	△	△
農薬以外	ネット巻き	×	○	木にネットを巻き付ける	△	○	○	○	△
	成虫の捕殺	－	○	成虫を駆除する	○	○	○	○	△
	被害木の伐倒	◎	－	被害を受けた木を切り倒す	－	◎	◎	◎	◎

(凡例 ◎：効果が高い ○：効果がある △：効果が薄い ×：効果がない －：対象外)

● 対策時期

各種防除対策は効果的な時期に実施する。



各種防除対策

● 樹幹注入

木の幹に穴をあけ、薬剤を注入する。薬剤は木に吸い上げられて木全体に拡がり、薬剤を含む部分を幼虫が食べることで駆除できる。

○ 使用できる農薬

令和2年7月22日 現在

薬剤名（有効成分名）	作物名	使用時期	備考
アトラック液剤 (チアメトキシサム)	サクラ	幼虫発生前～幼虫発生期	—
ウッドスター (ジノテフラン)	サクラ	新葉展開後～落葉前まで	—
リバイブ (エマメクチン安息香酸塩)	サクラ	発生前～発生期	—

○ 必要な道具

農薬、メジャー、電動ドリル、癒合剤（保護剤）など

○ 使用方法（例：ウッドスター）

（１）木の根元（注入部）の太さを測定する

- ・注入部の直径をメジャーで測定し、
薬剤の使用量を確認する。

（２）注入する穴（注入孔）をあける

- ・電動ドリルで根元に必要な数の穴をあける。

（３）薬剤を注入する

- ・注入孔１つにつき規定量（４ml）を注入する。

（４）注入孔を癒合剤でふさぐ（保護する）

注入部直径

6cm～10cm：8～12ml
10cm～20cm：12～24ml
20cm～30cm：24～36ml
30cm～40cm：36～48ml
40cm～50cm：48～60ml
50cm～60cm：60～72ml
以降、直径が10cm増す毎に
12mlを追加する

ウッドスターの使用量
（１孔あたり、4ml）

例：注入部直径50cmの場合

注入量＝60ml
 $60 \div 4 = 15$
⇒ 注入孔は15孔 必要



注入孔をあける様子



専用の注入器で薬剤を注入



癒合剤でふさいだ様子

● フラス孔注入

幼虫がフラスを排出している穴に薬剤を注入する。
基本的に**薬液が直接幼虫にかかることで駆除できる**。

○ 使用できる農薬

令和2年7月22日 現在

薬剤名（有効成分名）	作物名	使用時期	備考
園芸用キンチョールE （ペルメトリン）	サクラ	—	スプレー式
マツグリーン液剤2 （アセタミプリド）	サクラ	発生初期	50倍希釈
バイオセーフ （スタイナーネマカーボカプサエ）	サクラ、ウメ、モモ	幼虫発生期	生物農薬
アクセルフロアブル （メタフルミゾン）	サクラ	—	100倍希釈
ベニカカミキリムシエアゾール （フェンプロパトリン）	樹木類	—	スプレー式
	ウメ、モモ、おうとう、果樹類（※）	収穫前日まで	
ロビンフッド （フェンプロパトリン）	樹木類	—	スプレー式
	ウメ、モモ、おうとう、果樹類（※）	収穫前日まで	

果樹類（※）：かんきつりんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちじく（種子）くり、ペカン、アーモンド、くるみ（食用つばき（種子）を除く）

○ 必要な道具

農薬、千枚通しや針金、ブラシ、注入器（スプレー式は不要）など



フラス孔

○ 使用方法（例：ロビンフッド）

（1）フラス孔を確認する

- ・フラスを排出している穴を探す。

（2）フラス孔周辺のフラスを除去する

- ・千枚通しなどでフラスをかき出してフラスを除去する。



フラスの除去

（3）フラス孔に薬剤を注入する

- ・穴が深い方向にノズルを差し込み、薬液があふれるまで注入する。



薬剤の注入

✿ ポイント 「駆除効果の確認方法」

薬液が幼虫に直接かからなかった場合、幼虫が生存している可能性があります。
幼虫が生きている場合、「**新たなフラス**」が排出されますので、その場合は、再度薬剤を注入します。新たなフラスを確認するためには、薬剤を注入する時に木の根元など周辺の既に排出されているフラスをきれいに除去しておくとう分かりやすくなります。

● 散布

希釈した薬剤を噴霧器により散布する。

主に木に付着した成虫を駆除するために使用する。

○ 使用できる農薬

令和2年7月22日 現在

薬剤名（有効成分名）	作物名	使用時期	備考
スミパイン乳剤 （MEP）	サクラ	成虫の発生初期又は直前	50～150倍希釈
アクタラ顆粒水溶剤 （チアメトキシサム）	ウメ、小粒核果類（※）	収穫7日前まで	2000倍希釈
	モモ、ネクタリン、おうとう	収穫前日まで	
マツグリーン液剤2 （アセタミプリド）	サクラ	発生初期	200倍希釈
アクセルフロアブル （メタフルミゾン）	サクラ	成虫発生直前～成虫発生期	1000倍希釈
	ウメ	収穫前日まで	
モスピラン顆粒水溶剤 （アセタミプリド）	サクラ、	発生初期	2000倍希釈
	ウメ、モモ、スモモ	収穫前日まで	
スプラサイド水和剤 （DMTP）	ウメ、スモモ	収穫14日前まで	1500倍希釈
	モモ	収穫21日前まで	
スプラサイドM （DMTP）	モモ	収穫60日前まで	200倍希釈
テッパン液剤 （シクラニリプロール）	モモ、スモモ	収穫前日まで	2000倍希釈
ダブルトリガー液剤 （シクラニリプロール）	サクラ	発生初期	2000倍希釈

小粒核果類（※）：アンズ、ウメ、スモモ（ウメを除く）

○ 必要な道具

農薬、噴霧器、バケツ、農薬に見合った保護衣・保護具など

✳ ポイント 「散布による対策の注意事項」

散布による対策では、特に公園や住宅街など人通りのある場所で実施する場合、周辺への事前の周知、立て看板の設置、立ち入り制限範囲の設定などにより、散布中に人が近寄らないようにするなどの配慮をしましょう。

✳ ポイント 「農薬の使用にあたって」

農薬は、農薬取締法に基づいて、木の種類（作物）や害虫ごとに登録されています。農薬を使用する場合は、当該作物に適用のある農薬を選択し、ラベルに記載されている使用方法（使用回数、使用量、希釈倍数など）や注意事項を守って使用してください。

● ネット巻き

幼虫に寄生された木にネットを巻いておくことで、羽化した成虫の移動を防止する。

○ 必要な道具

ネット（目合い4 mm以下、縦幅2 m程度、防風ネットなど丈夫なもの、色は黒色や青色）、ネットを固定する資材（PPバンド、結束バンド、針金、ひも、タッカー、ペグなど）など

○ 使用例



上端

高さ1.5～2 mの位置でPPバンドやタッカーなどを使用して隙間なく固定する。

※高さ2 m以下で

- 幹が分岐している場合は、
- ①分岐箇所から上の幹ごとにネットを巻く。
- ②ネットの間に隙間ができないように下の幹に巻く。

幹周

ネットを2周程度巻き付け、結束バンドなどで固定する。幹に密着させすぎると、成虫が噛み切ることがあるため、余裕をもたせる。

下端

根を覆うように包み、ペグで隙間なく固定する。ペグを地面に打ち込むことが難しい場合は、PPバンドなどで固定する。



✳ ポイント 「ネット巻きは管理が重要」

ネット巻きは成虫が移動し、被害が拡散することを防ぐものです。駆除の効果はないため、成虫の発生時期には**定期的に見回り**を行いネット内で羽化した成虫を**駆除**しなければなりません。駆除しないでおくと、成虫がネットをかみ切って**脱出**してしまうだけでなく、ネット内の成虫が産卵し、ネットを巻いた木が**集中的に被害**を受けてしまいます。

また、成虫の発生時期後にはネットを外し、たまったフラスを掃除するなど、定期的に管理をしましょう。



ネットにかみ付く成虫



ネット内にたまるフラス

● 成虫の捕殺

成虫を発見した場合、ハンマーなどで叩く、踏みつぶすなどして**その場で**駆除する

✿ ポイント 「必ずその場で駆除する」

クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されているため、生きたまま持ち運ぶことは**禁止**されています。
発見した場合は必ず「**その場**」で駆除してください。



● 被害木の伐倒

被害の著しい木は、農薬などによる対策の効果が薄いだけでなく、枝が落ちたり、木が倒れるなど**人身・建物被害が発生するおそれがある**ため、伐倒する。

✿ ポイント 「伐倒は適切に処理する」

被害木の伐倒は、木の中の幼虫をすべて駆除できるため、効果的な防除方法のひとつです。

しかし、適切に処理しないと、切った木などから成虫が羽化して被害の拡大につながったり、法律に違反することもありますので、注意が必要です。



被害木の伐倒

● 伐倒木の処理は速やかに「焼却・粉碎・くん蒸」

焼却

市町村の焼却施設に持ち込み、焼却する。
持ち込みできる大きさに制限があるため、事前に確認する。

粉碎

現地またはチップ工場にて伐倒木を破砕する。
チップの大きさは10mm以下とする（大きいと幼虫が生き残る可能性がある）。

くん蒸

登録された薬剤により、くん蒸する（以下、薬剤の例）。

令和2年7月22日 現在

薬剤名（有効成分名）	作物名	くん蒸時間
N C S (カーバム)	サクラ（伐倒木） モモ（伐倒木）	14日以上

● 切り株はなるべく残さない

切り株に幼虫が寄生していることもあるため、なるべく**伐根**（根を取り除く）してください。
伐根できない場合は、ネットやビニールシートで覆う、埋設するなどの処理をしてください。



ネットで覆う処理をした切り株

● 実施時期は9月から翌年4月まで

木の中に蛹や成虫がいる時期（5～8月）は、成虫が脱出するおそれがあるため、避ける。

● 外来生物法を遵守した処理

伐倒した木の中には生きている幼虫が寄生しているため、基本的には**運搬や保管**をすることは**できません**。

しかし、木の中の幼虫をその場で駆除することは難しいため、環境省は通知「外来生物法の規制に係る運用（クビアカツヤカミキリの運搬及び保管）」（https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka_tsuuchi.pdf）により、扱いを整理していますので、伐倒する場合には**必ず事前に確認**してください。

通知の概要 以下のア～エを**すべて**満たす場合、運搬可能

- ア) その場ですべての個体を殺処分することが難しい場合に、拡散を防ぎ、確実に殺処分することを目的に焼却または粉碎、くん蒸が可能な場所へ運搬する場合。
- イ) 目で確認できる個体は、運搬前に確実に殺処分をしていること。
- ウ) 運搬中に伐倒木や幼虫、成虫などが落下・飛散しない措置を十分にとっていること。
- エ) 「特定外来生物の防除である旨」「実施主体」「実施日・場所」を事前に公表すること。

● その他の対策

○ 木の幹に巻き付ける農薬

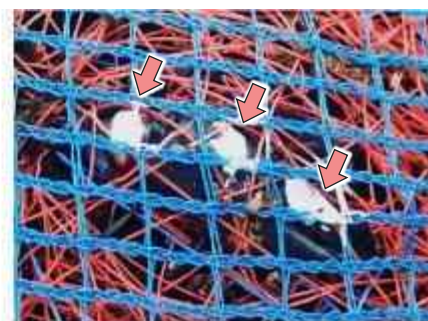
甲虫などに寄生する菌を使用した生物農薬。成虫が触れることで菌が感染し、1～2週間程度でカビが生えて駆除できる。

令和2年7月22日 現在

薬剤名（有効成分名）	作物名	使い方
バイオリサ・カミキリ (ポーベリアプロンニアティ)	サクラ、果樹類	木の幹に巻き付ける



ネット内でバイオリサ・カミキリを併用した例



カビが生えた成虫

○ 幼虫の刺殺

幼虫が木の浅い部分にいる場合は、フラス孔に針金などを差し込むことで駆除できる。



幼虫の刺殺

「クビアカリポーター」へのご協力をお願い

クビアカリポーターは、お住まいの地域などでクビアカツヤカミキリの発生が疑われる状況を発見した際に、市役所・町村役場へ情報提供をしていただくボランティアです。

情報提供と成虫の駆除にご協力をお願いします。

● 情報提供

成虫や**フラス**など、クビアカツヤカミキリの発生が疑われる状況を発見した場合は、**最寄りの市役所・町村役場**に発見場所や日時などを**お知らせください**。



クビアカリポーターリストバンド

※ 市町村の連絡窓口は、19ページまたは県ホームページに掲載しています。

クビアカツヤカミキリを発見された方へ
(https://www.pref.gunma.jp/04/e23g_00062.html)

上記ホームページは、リストバンドやリポーター証に記載されたQRコードからも読み込むことができます。



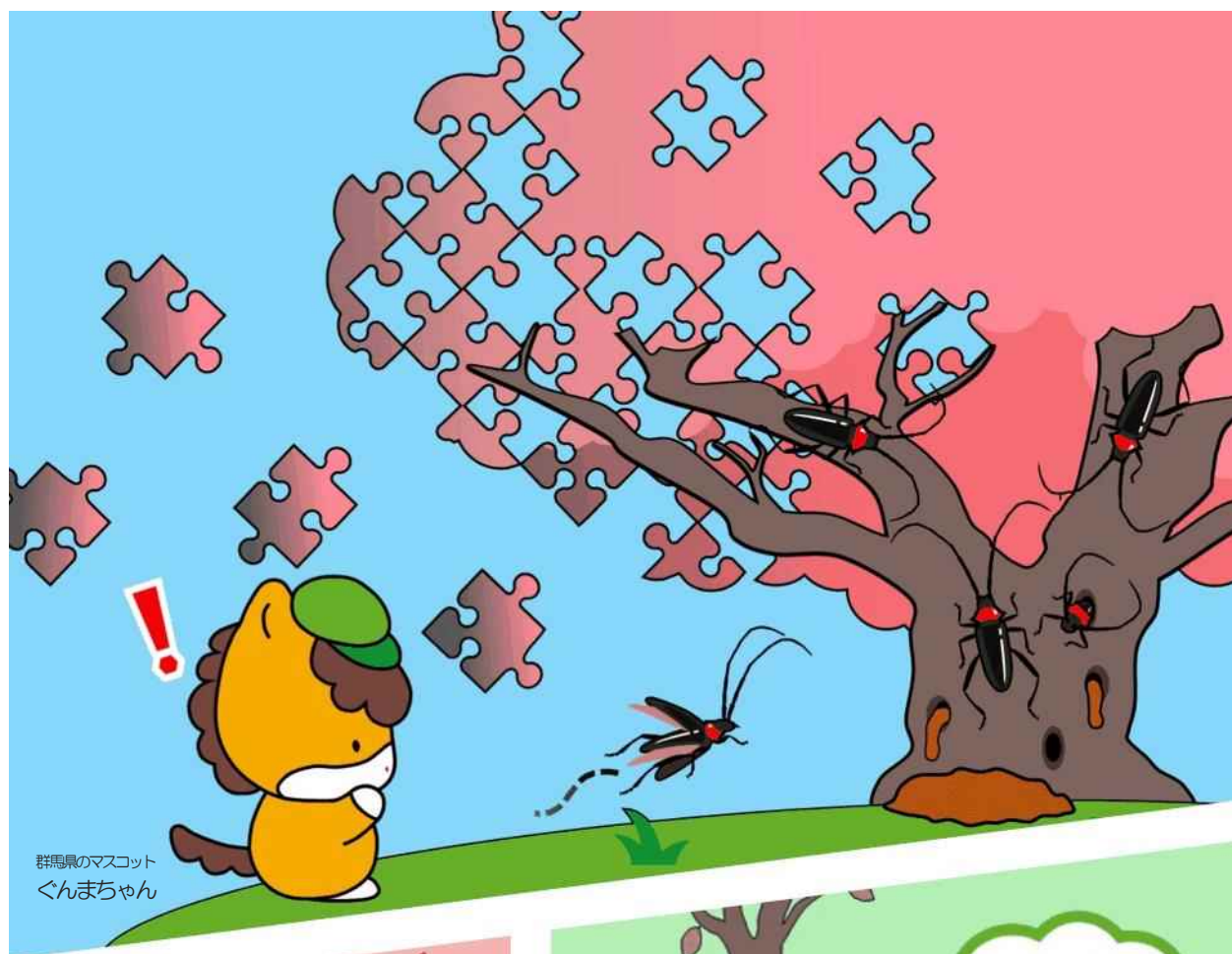
● 成虫の駆除

特に成虫を発見した場合は、**その場**で駆除をしてください。



● 市町村の連絡窓口

郡名	市町村名	担当課	電話番号
	前橋市	環境森林課	027-898-6292
	高崎市	環境政策課	027-321-1251
	桐生市	公園緑地課	0277-46-1111
	伊勢崎市	農政課	0270-27-2757
	太田市	環境政策課	0276-47-1953
	沼田市	環境課	0278-23-2111
	館林市	地球環境課	0276-72-4111
	渋川市	環境政策課	0279-22-2114
	藤岡市	環境課	0274-40-2264
	富岡市	環境課	0274-62-2823
	安中市	環境政策課	027-382-1111
	みどり市	生活環境課	0277-76-0985
	北群馬郡	榛東村	住民生活課
		吉岡町	住民課
	多野郡	上野村	振興課
		神流町	住民生活課
	甘楽郡	下仁田町	保健課
		南牧村	振興整備課
		甘楽町	住民課
		中之条町	観光商工課
		長野原町	産業課
	吾妻郡	嬭恋村	農林振興課
		草津町	企画創造課
		高山村	地域振興課
		東吾妻町	町民課
	利根郡	片品村	むらづくり観光課
		川場村	むらづくり振興課
		昭和村	産業課
		みなかみ町	生活水道課
佐波郡	玉村町	環境安全課	0270-64-7708
	邑楽郡	板倉町	住民環境課
		明和町	住民環境課
		千代田町	産業観光課
		大泉町	環境整備課
		邑楽町	安全安心課



群馬県のマスコット
ぐんまちゃん



サクラやウメをみんなで守ろうね！

発行 群馬県環境森林部自然環境課

住所 〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

電話 027-226-2872 FAX 027-243-7702